

新城市まち・ひと・しごと創生

アンケート結果

平成 28 年 3 月

新城市

まち・ひと・しごと創生アンケート 調査結果

1.調査目的

「まち・ひと・しごと創生」にかかる取り組みとして、「新都市人口ビジョン」及び「新都市総合戦略」の策定をするにあたり、市民や市内事業所の現状や課題を把握するための大切な基礎資料とさせて頂くことを目的として、「結婚・出産・子育て」、「卒業後の進路と居住地」、「市内事業所の雇用動向」に関するアンケートを実施しました。

2.調査方法・回収結果

	結婚・出産・子育てに関するアンケート	卒業後の進路と居住地に関するアンケート	市内事務所の雇用動向に関するアンケート
地域	新都市全域		
対象者	新都市に在住する18～44歳の男女	新都市に在住する高校生	新都市内の事業所
標本数	2,000人	400人	100事業所
抽出方法	住民基本台帳等による無作為抽出		
調査期間	平成27年6月		
調査方法	郵送配布、郵送回収		
回収数	547件	151件	60件
回収率	27.4%	37.8%	60.0%

3.注意事項

(1) 比率については、小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100%にならないことがあります。

(2) 回答率の母数は、原則としてその質問の回答者数であり、図表では「n」と表示しています。

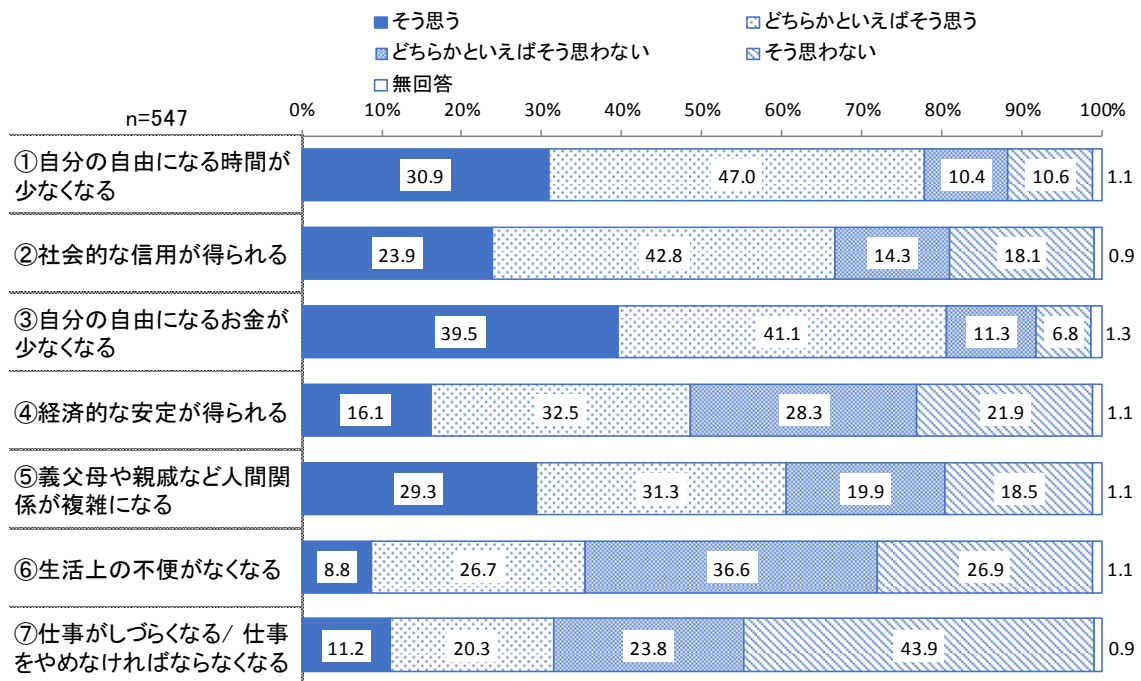
●結婚・出産・子育てに関するアンケート

1. 結婚観

「③自分の自由になるお金が少なくなる」と“そう思う”¹が80.6%

結婚についての考えをみると、“そう思う”が最も高いのは「③自分の自由になるお金が少なくなる」(80.6%)、反対に“そう思わない”²は、「⑦仕事がしづらくなる/仕事をやめなければならなくなる」(67.7%)が最も高くなっています。

図表 1 結婚観



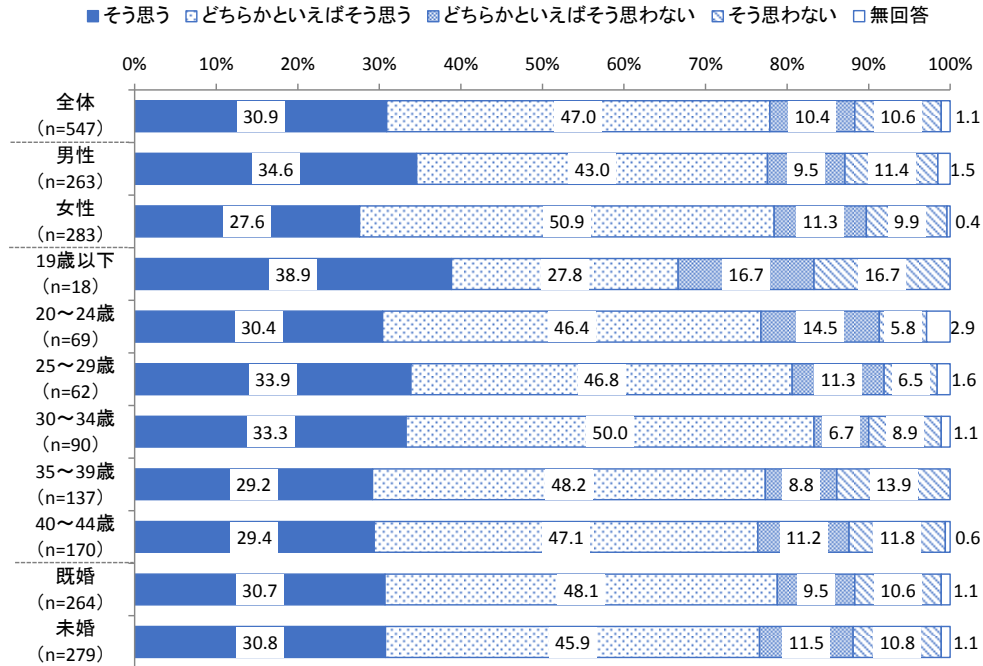
1 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの

2 「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせたもの

①自分の自由になる時間が少なくなる

結婚は「①自分の自由になる時間が少なくなる」と思うかについて、“そう思う”が77.9%と高くなっています。

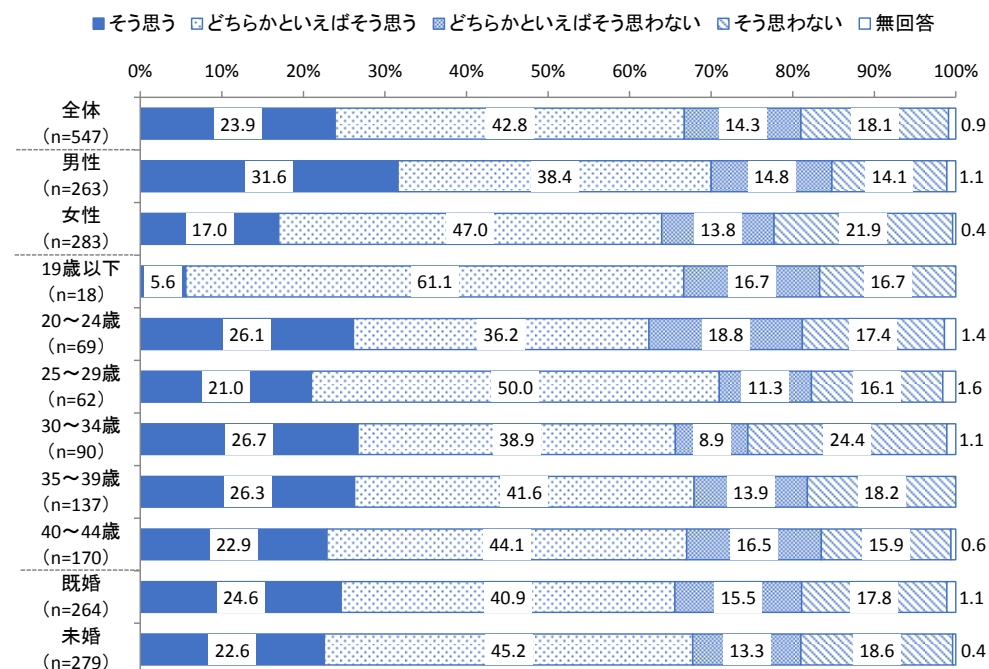
図表 2 結婚観①自分の自由になる時間が少なくなる



②社会的な信用が得られる

結婚は「②社会的な信用が得られる」と思うかについて、“そう思う”が66.7%と高くなっています。

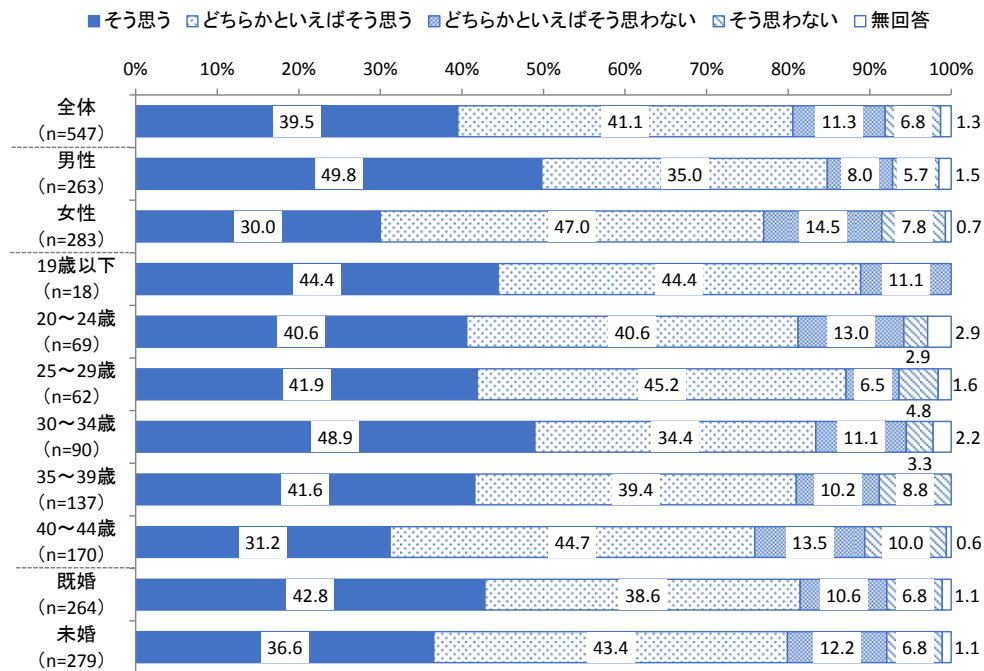
図表 3 結婚観②社会的な信用が得られる



③自分の自由になるお金が少なくなる

結婚は「③自分の自由になるお金が少なくなる」と思うかについて、“そう思う”が80.6%と高くなっています。

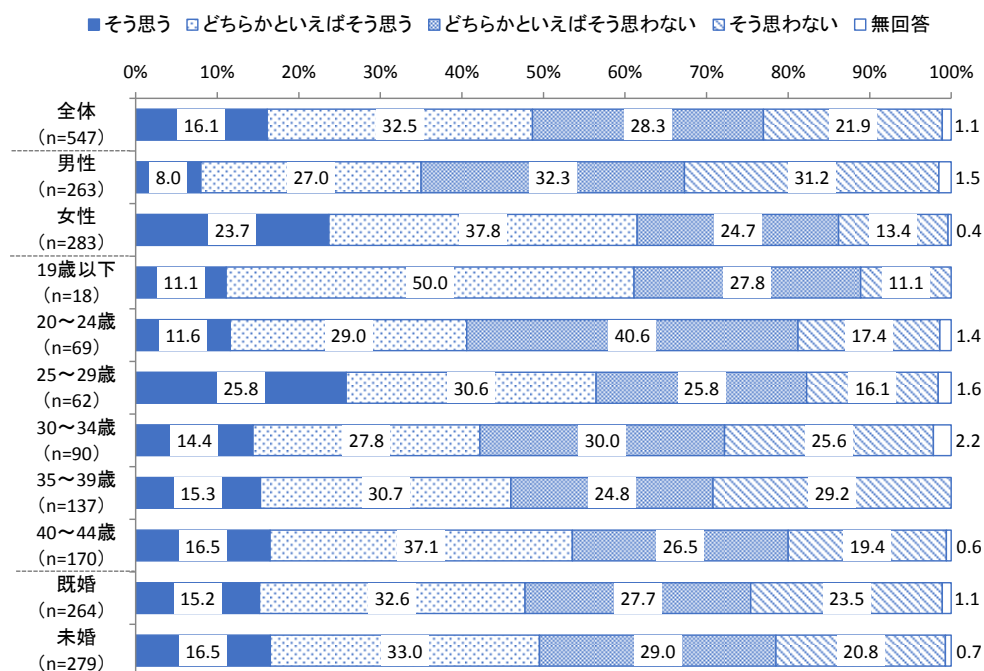
図表 4 結婚観③自分の自由になるお金が少なくなる



④経済的な安定が得られる

結婚は「④経済的な安定が得られる」と思うかについて、“そう思わない”が50.2%となっています。

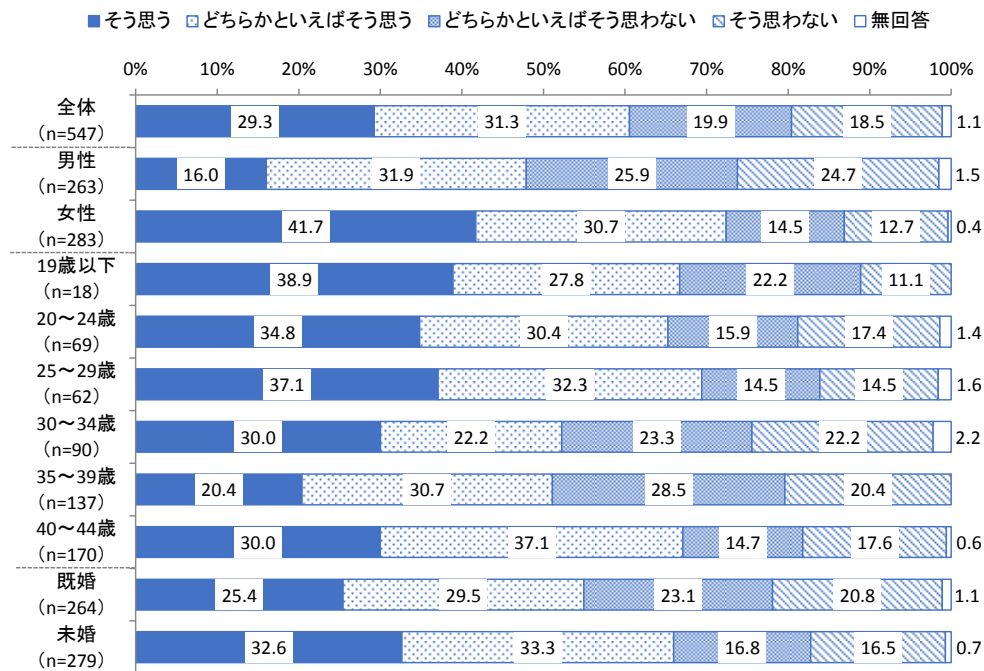
図表 5 結婚観④経済的な安定が得られる



⑤義父母や親戚など人間関係が複雑になる

結婚は「⑤義父母や親戚など人間関係が複雑になる」と思うかについて、“そう思う”が60.6%と高くなっています。

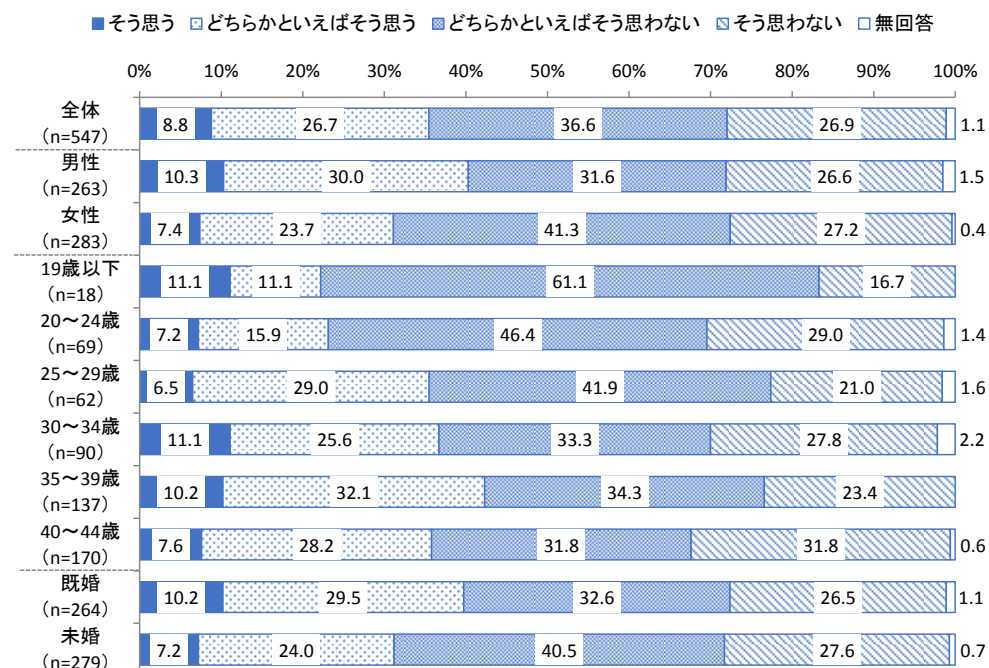
図表 6 結婚観⑤義父母や親戚など人間関係が複雑になる



⑥生活上の不便がなくなる

結婚は「⑥生活上の不便がなくなる」と思うかについて、“そう思わない”が63.5%と高くなっています。

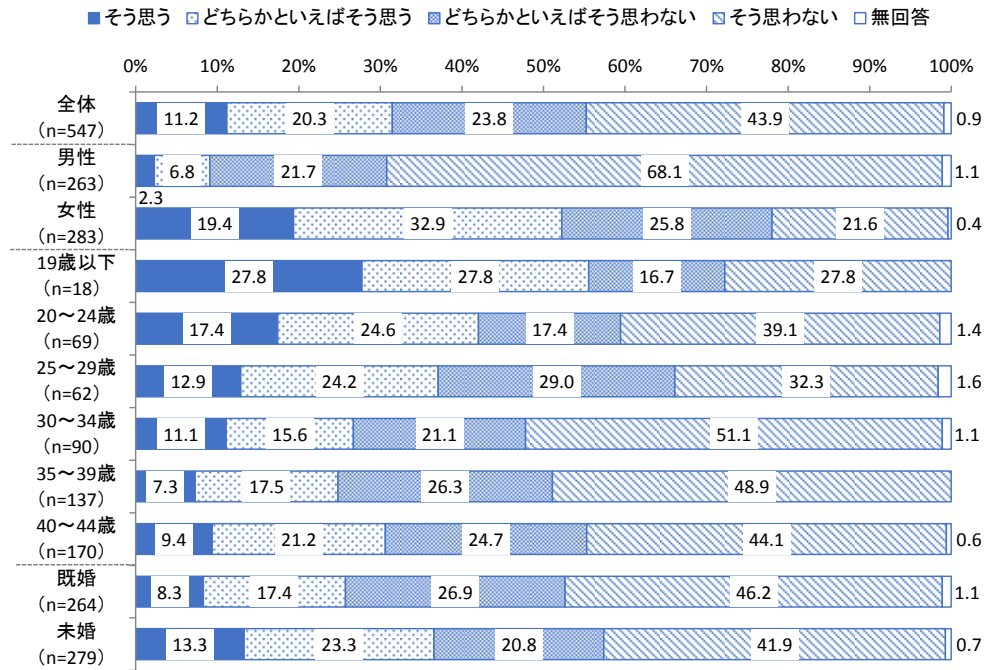
図表 7 結婚観⑥生活上の不便がなくなる



⑦仕事がしづらくなる／仕事をやめなければならなくなる

結婚は「⑦仕事がしづらくなる／仕事をやめなければならなくなる」と思うかについて、「そう思わない」が43.9%と高くなっています。

図表 8 結婚観⑦仕事がしづらくなる／仕事をやめなければならなくなる

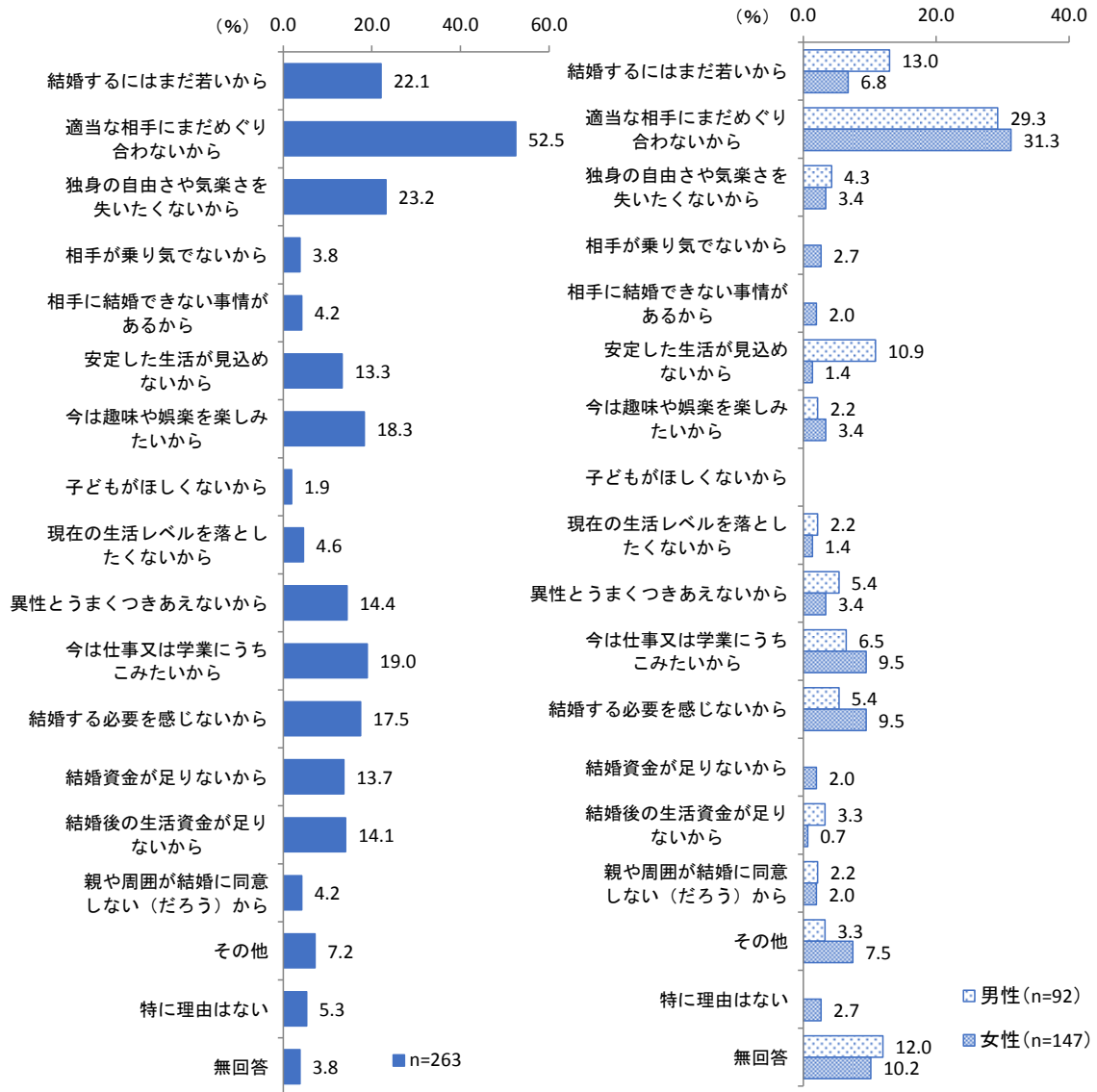


2. 現在独身でいる理由

「適当な相手にまだめぐり合わないから」が52.5%

現在独身でいる理由をみると、「適当な相手にまだめぐり合わないから」が52.5%と最も高くなっています。

図表 9 現在独身でいる理由

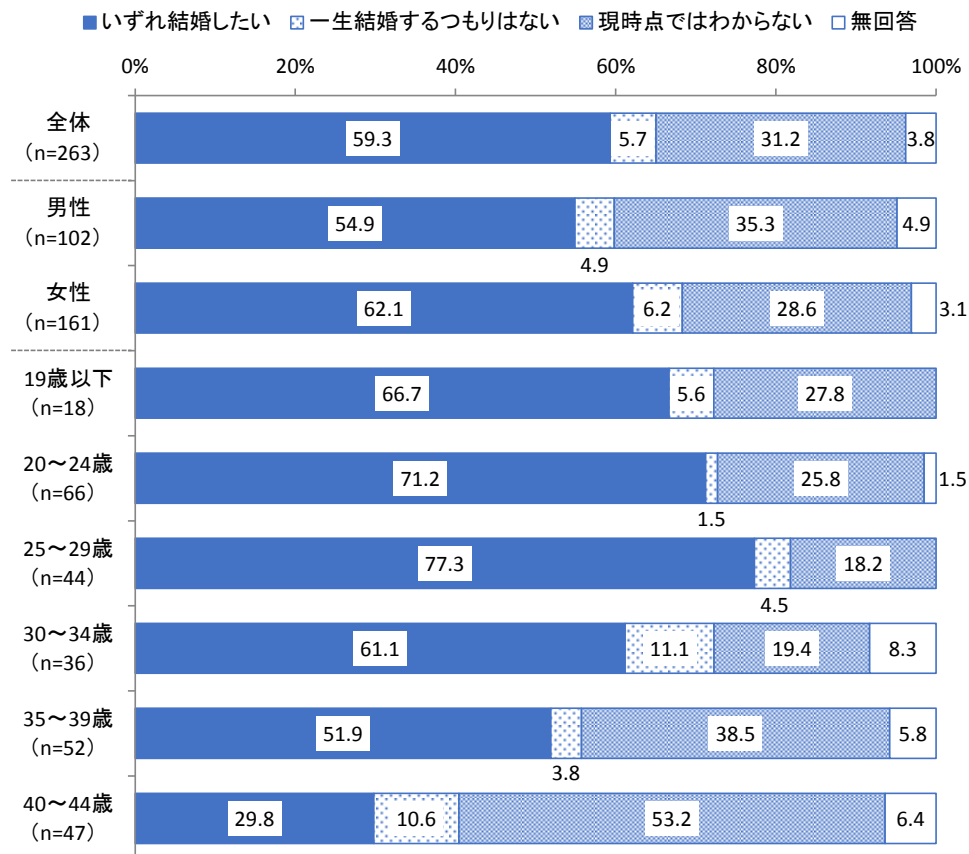


3. 結婚願望

「いずれ結婚したい」が59.3%、「現時点ではわからない」が31.2%

結婚に対する希望をみると、「いずれ結婚したい」が59.3%、「現時点ではわからない」が31.2%、「一生結婚するつもりはない」が5.7%となっています。

図表 10 結婚願望



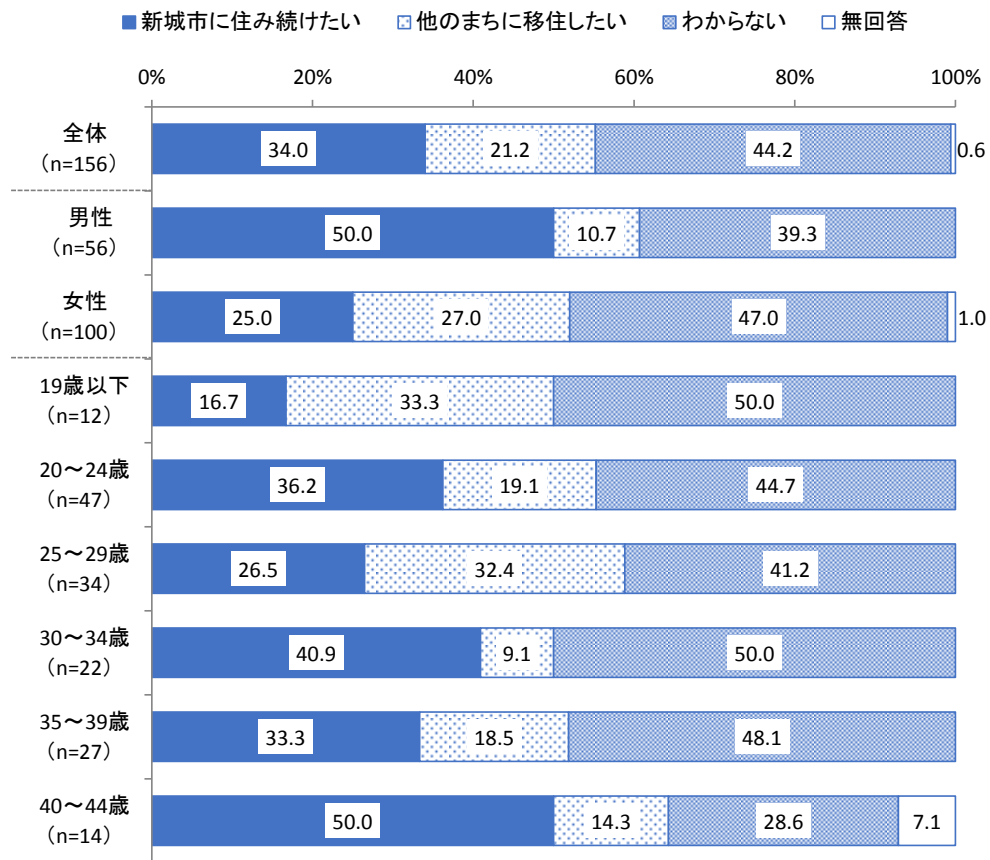
※ 「いずれ結婚したい」と回答された方

4. 結婚後の居住希望

「新都市に住み続けたい」が34.0%、「他のまちに移住したい」が21.2%

結婚後の居住希望をみると、「新都市に住み続けたい」が34.0%、「他のまちに移住したい」が21.2%となっています。また、「わからない」が44.2%と最も高くなっています。

図表 11 結婚後の居住希望



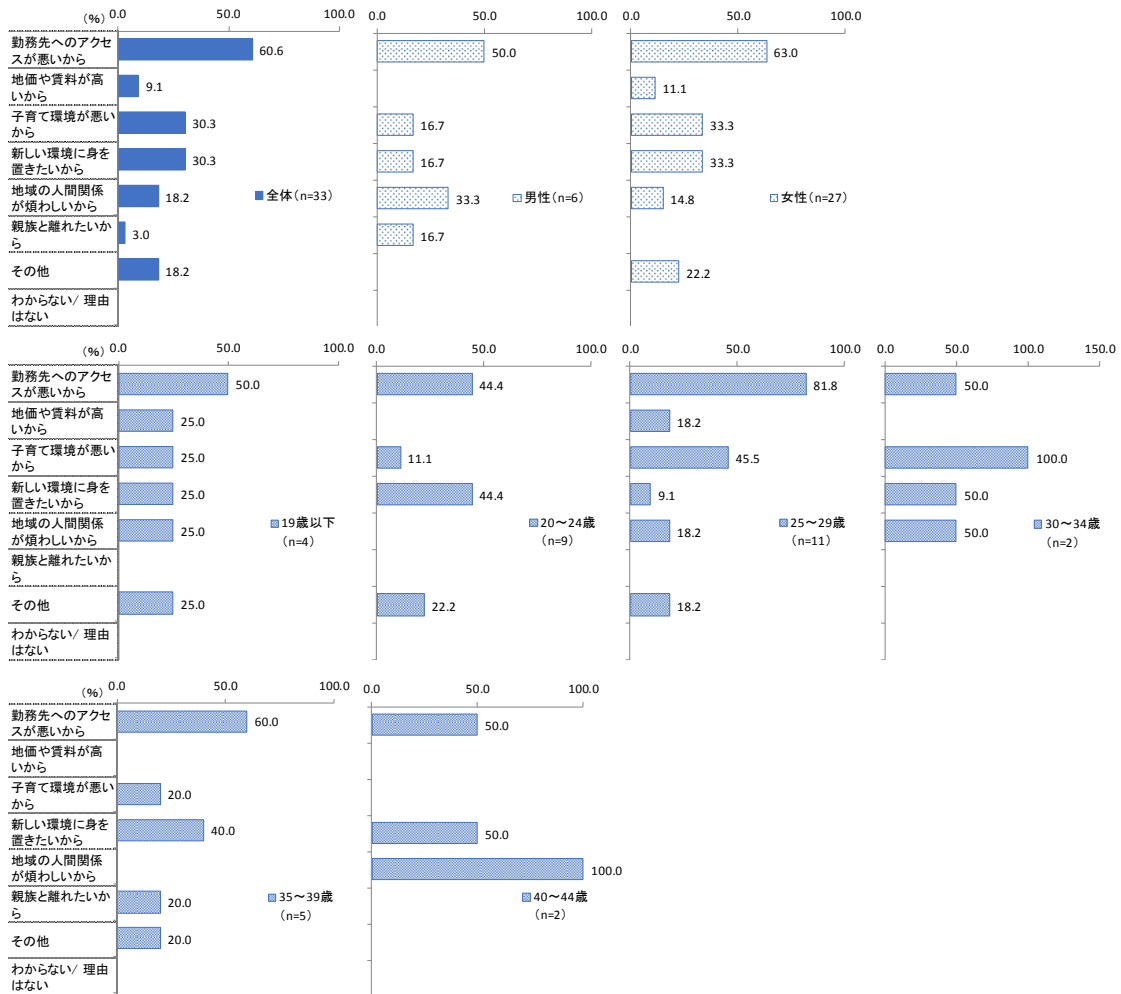
※「他のまちに移住したい」と回答された方

5. 結婚後に移住したい理由

「勤務先へのアクセスが悪いから」が60.6%

結婚後に移住したい理由をみると、「勤務先へのアクセスが悪いから」が60.6%と最も高く、次いで、「子育て環境が悪いから」「新しい環境に身を置きたいから」（ともに30.3%）となっています。

図表 12 結婚後に移住したい理由

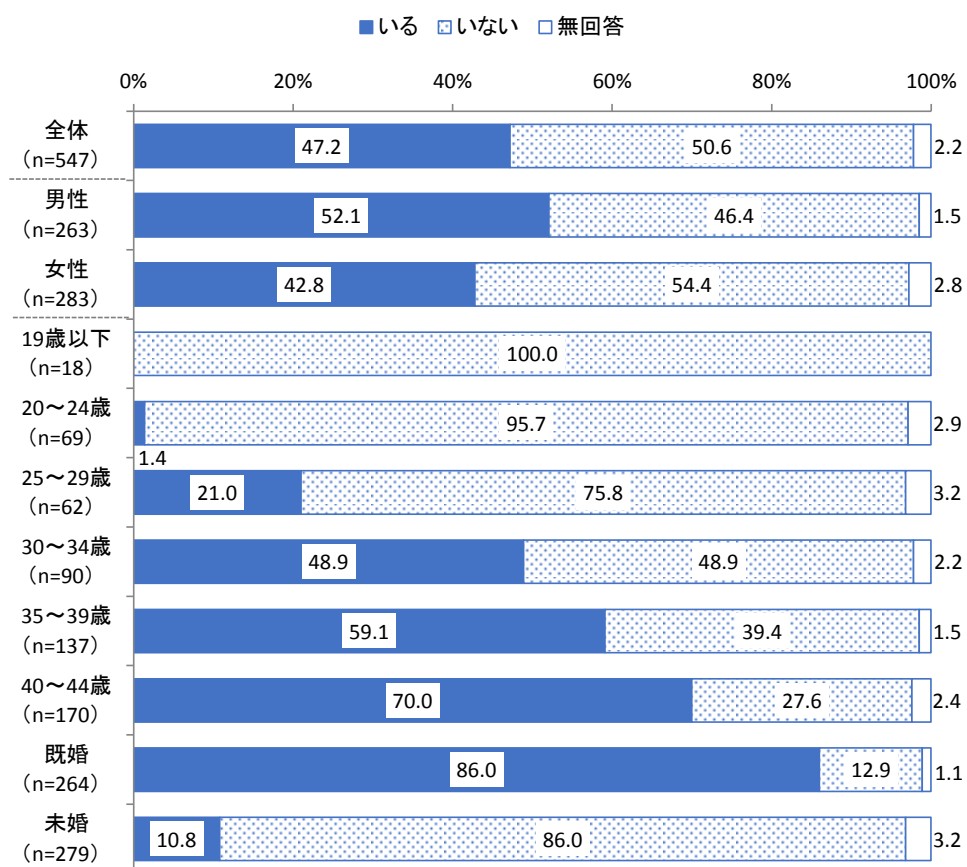


6. お子さんの有無

「いない」が50.6%、「いる」が47.2%

お子さんの有無をみると、「いない」が50.6%、「いる」が47.2%となっています。

図表 13 お子さんの有無



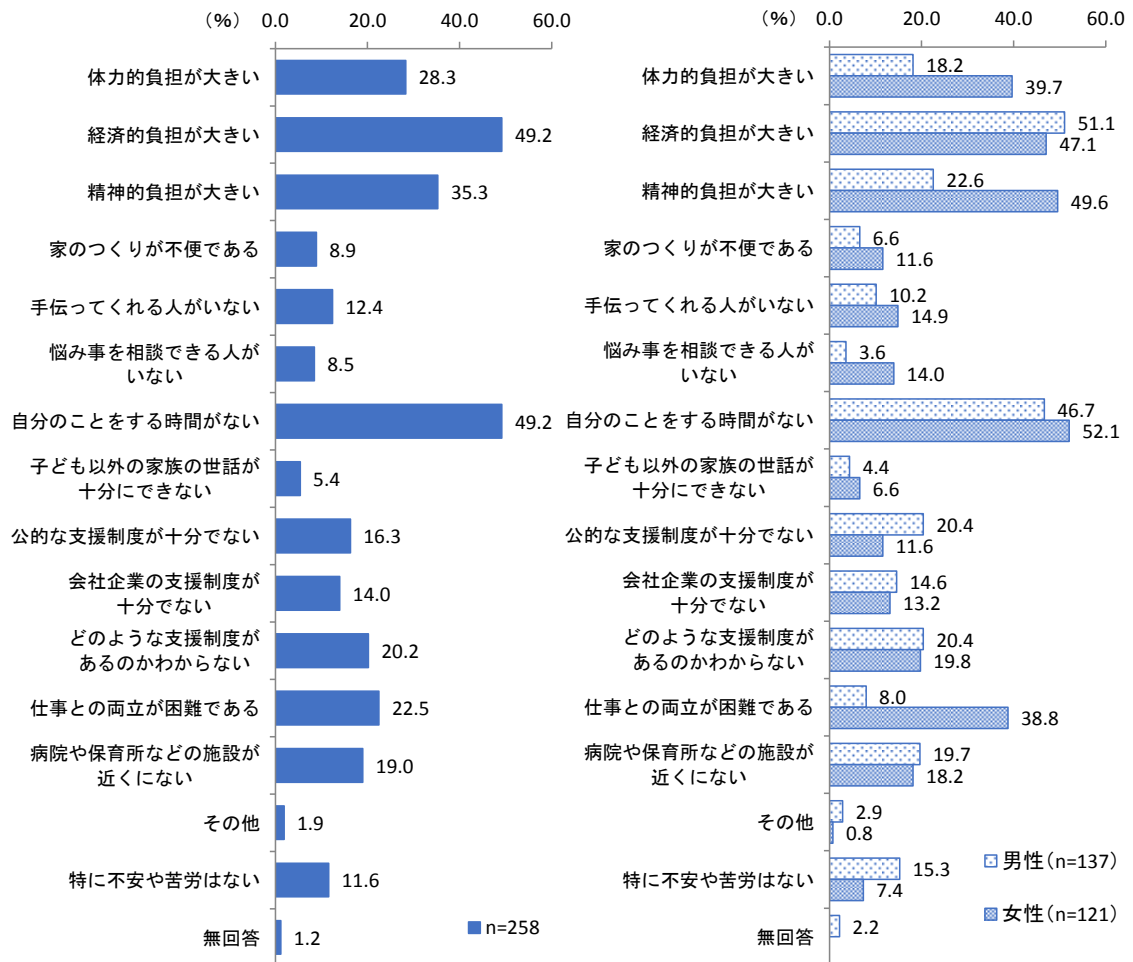
※お子さんが「いる」と回答された方

7. 出産、育児に際しての不安や苦勞

「経済的負担が大きい」と「自分のことをする時間がない」がともに 49.2%

出産、育児に際しての不安や苦勞をみると、「経済的負担が大きい」と「自分のことをする時間がない」がともに 49.2%と最も高くなっています。

図表 14 出産、育児に際しての不安や苦勞

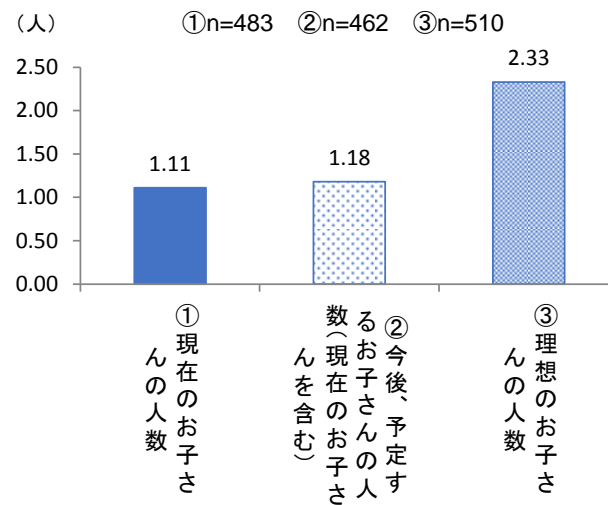


8. お子さんの人数

「③理想のお子さんの人数」は平均 2.33 人

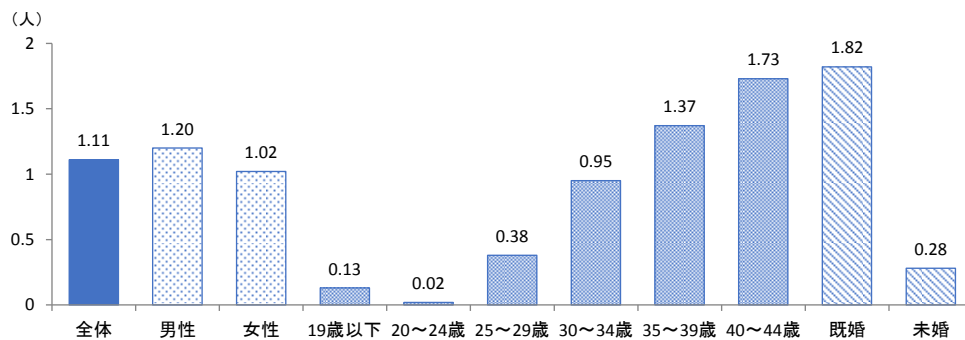
お子さんに人数についてみると、「①現在のお子さんの人数」は平均 1.11 人、「②今後予定するお子さんの人数（現在のお子さんを含む）」は平均 1.18 人、「③理想のお子さんの人数」は平均 2.33 人となっています。

図表 15 お子さんの人数



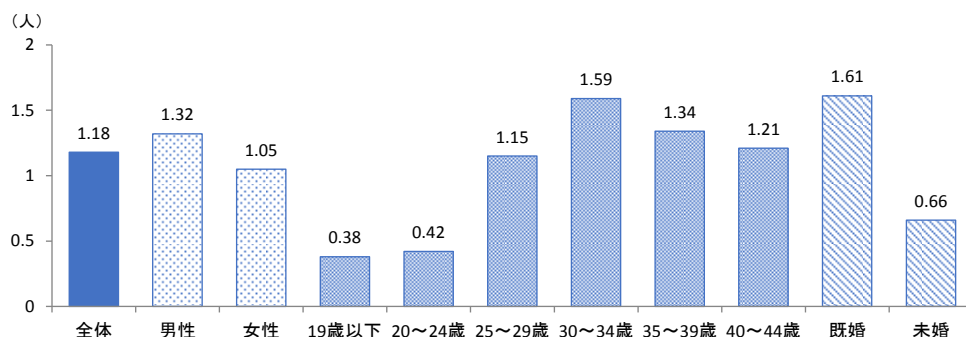
①現在のお子さんの人数

①現在のお子さんの人数について、年齢別でみると、年齢があがるにつれてお子さんの人数も増える傾向となっており、「20～24 歳」で平均 0.02 人が「40～44 歳」で平均 1.73 人（1.71 人増）となっています。



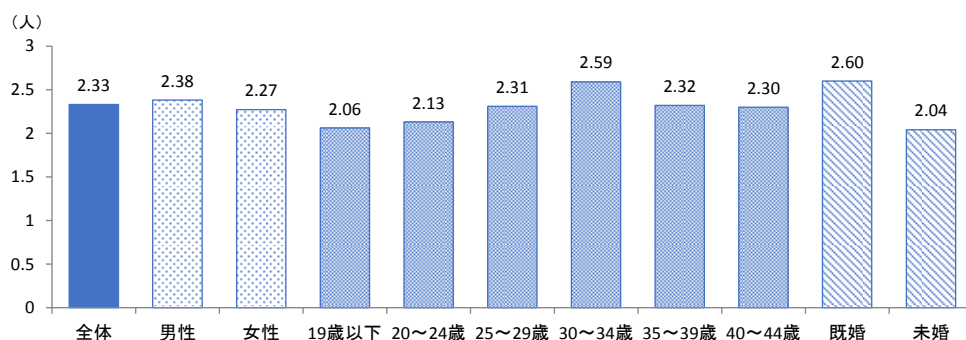
②今後、予定するお子さんの人数

②今後、予定するお子さんの人数について、年齢別でみると、「30～34歳」で平均 1.59 人と最も高くなっています。



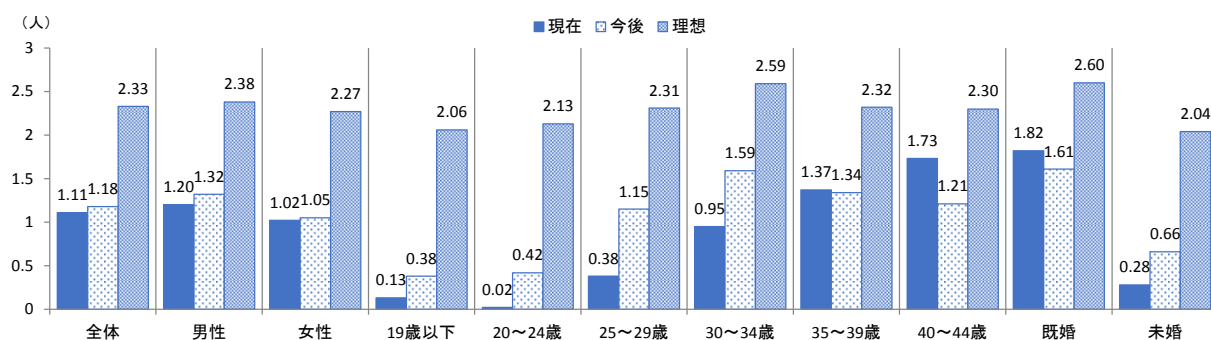
③理想のお子さんの人数

③理想のお子さんの人数について、年齢別でみると、「30～34歳」で平均 2.59 人と最も高くなっているが、他の年代でも 2 人以上となっています。



<現在、予定、理想のお子さんの人数比較>

お子さんの現在の人数、今後予定する人数、理想の人数を比較してみると、現在の人数、今後予定する人数に大きな差はなく約 1 人となっているが、理想の人数は 2 人以上となっており、その差は約 1 人となっています。

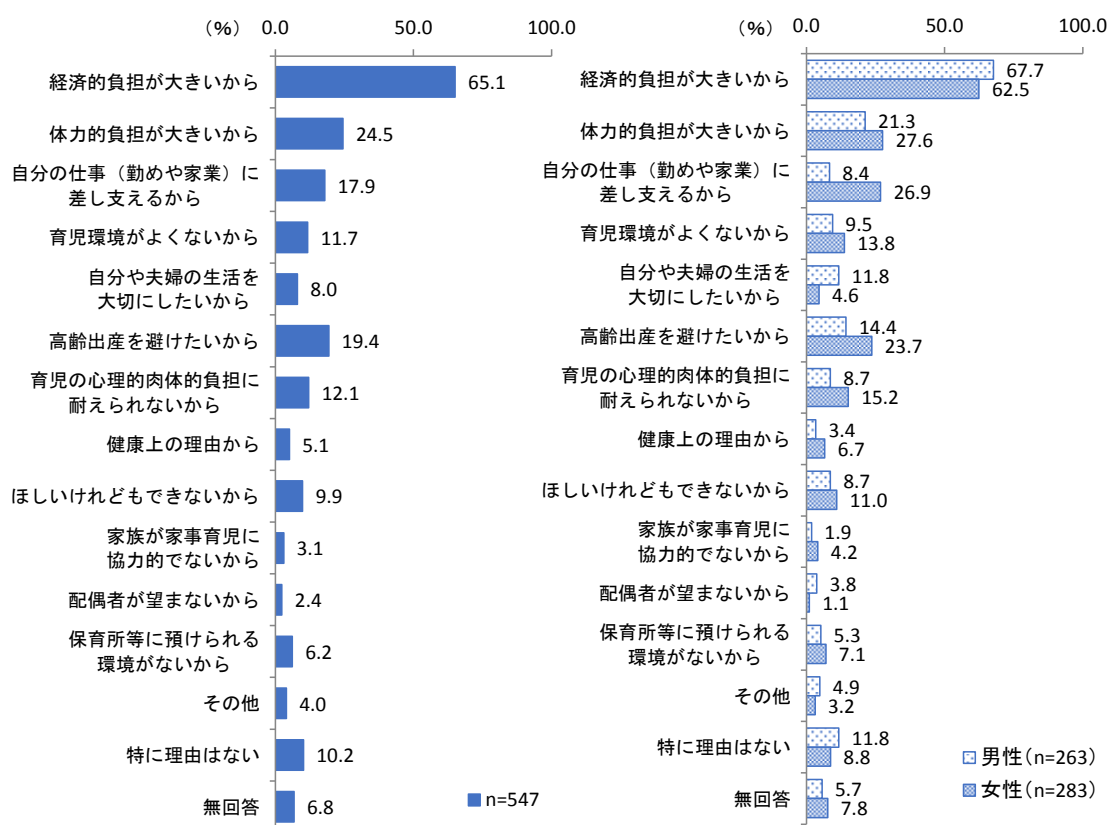


9. 理想的な子どもの人数を実現する際の問題

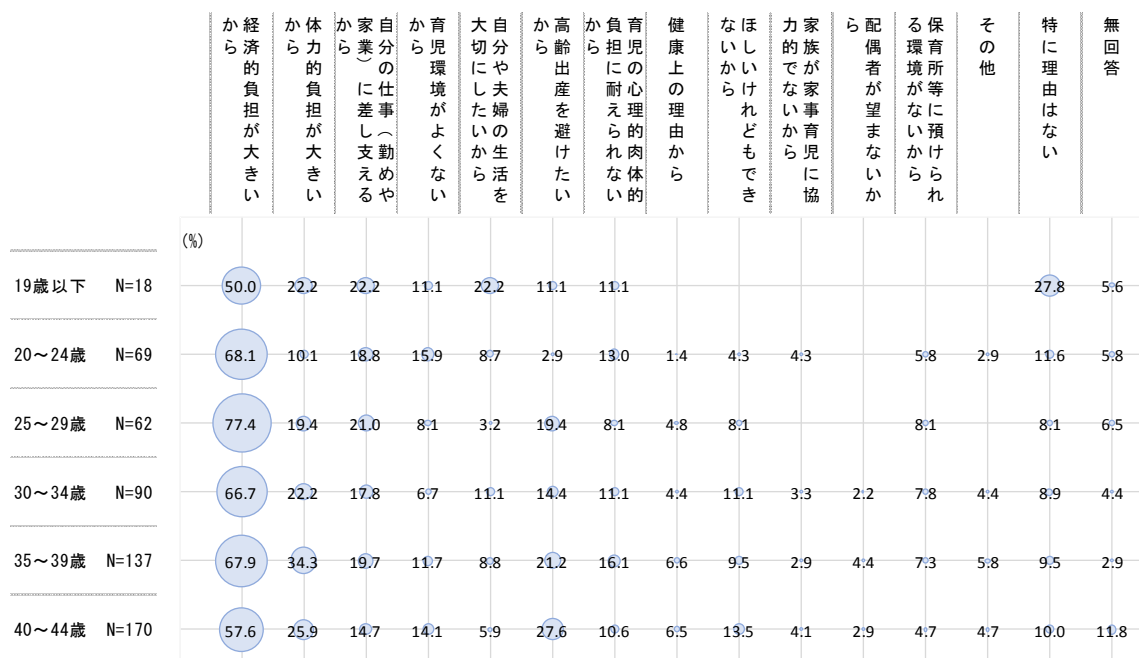
「経済的負担が大きいから」が 65.1%、「体力的負担が大きいから」が 24.5%

理想的な子どもの人数を実現する際の問題をみると、「経済的負担が大きいから」が 65.1%と最も高く、次いで、「体力的負担が大きいから」(24.5%)、「高齢出産を避けたいから」(19.4%) となっています。

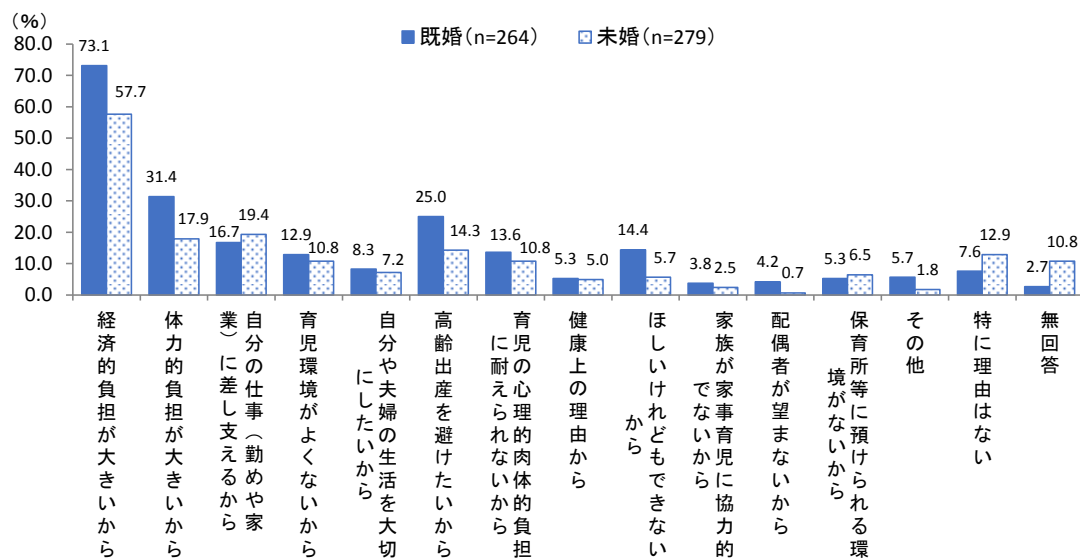
図表 16 理想的な子どもの人数を実現する際の問題



年齢別でみると、「25～29 歳」で「経済的負担が大きいから」(77.4%)、「35～39 歳」で「体力的負担が大きいから」(34.3%)、「40～44 歳」で「高齢出産を避けたいから」(27.6%) の割合が高くなっています。



未婚別でみると、「既婚」で「体力的負担が大きいから」(13.5 ポイント差)、「高齢出産を避けたいから」(10.7 ポイント差) が「未婚」を 10 ポイント以上上回っています。



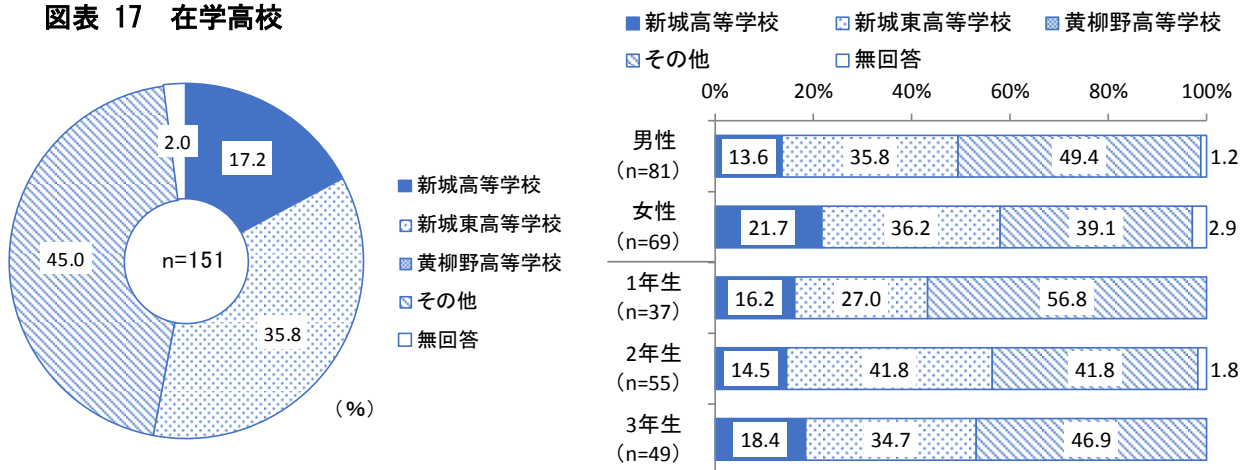
●卒業後の進路と居住地に関するアンケート

1. 在学高校

「新城東高等学校」が35.8%、「新城高等学校」が17.2%

回答者の在学高校は、「その他」が最も高く45.0%、次いで「新城東高等学校」（35.8%）、「新城高等学校」（17.2%）となっています。

図表 17 在学高校

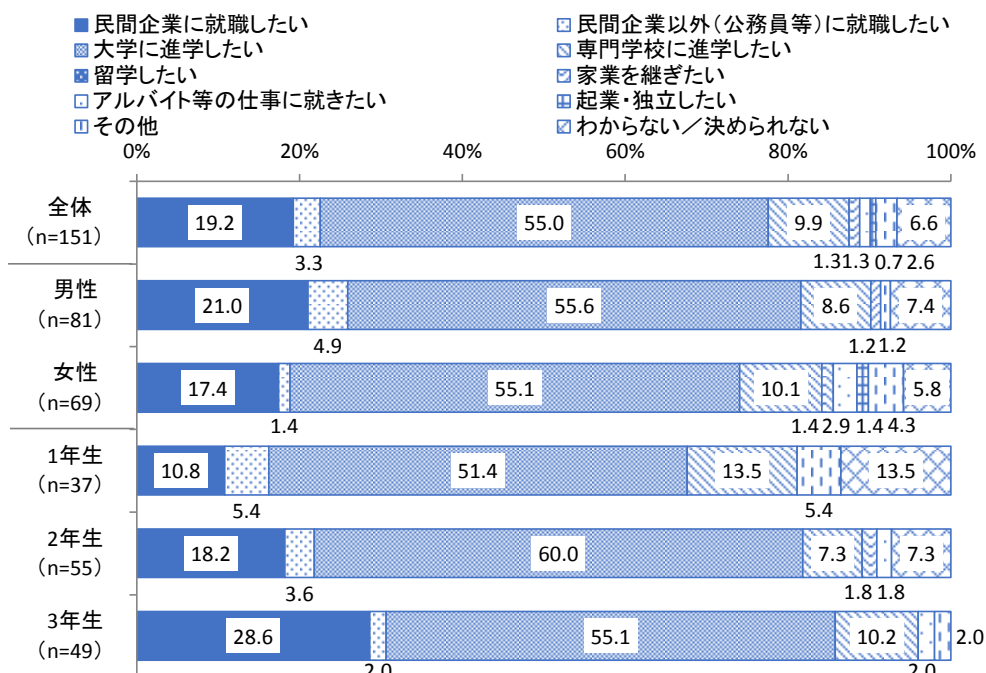


2. 進路希望

「大学に進学したい」が55.0%、「民間企業に就職したい」が19.2%

卒業後の進路の希望をみると、「大学に進学したい」が55.0%と最も高く、次いで、「民間企業に就職したい」（19.2%）、「専門学校に進学したい」（9.9%）となっています。

図表 18 進路希望



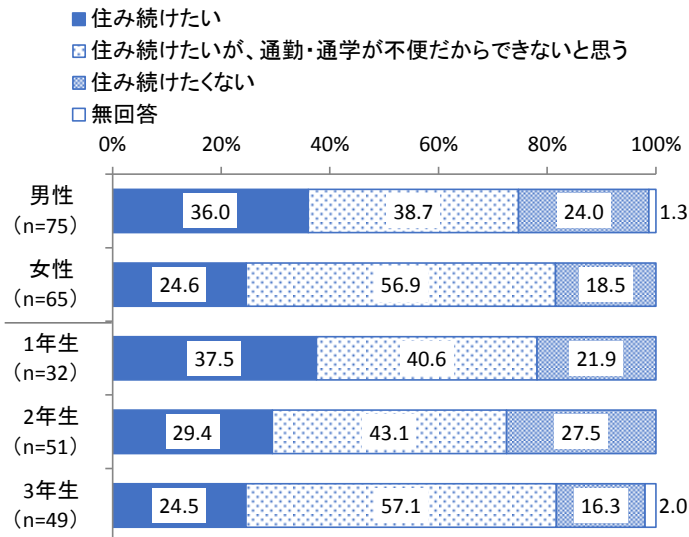
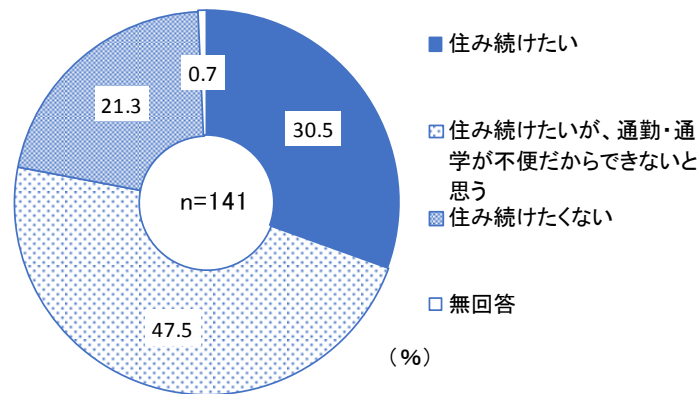
※「わからない／決められない」以外と回答された方

3. 卒業後の居住希望

「住みたいが、通勤・通学が不便だからできないと思う」が47.5%

卒業後の居住希望をみると、「住みたいが、通勤・通学が不便だからできないと思う」が47.5%と最も高く、次いで「住みたい」(30.5%)、「住みたくない」(21.3%)となっています。

図表 19 卒業後の居住希望



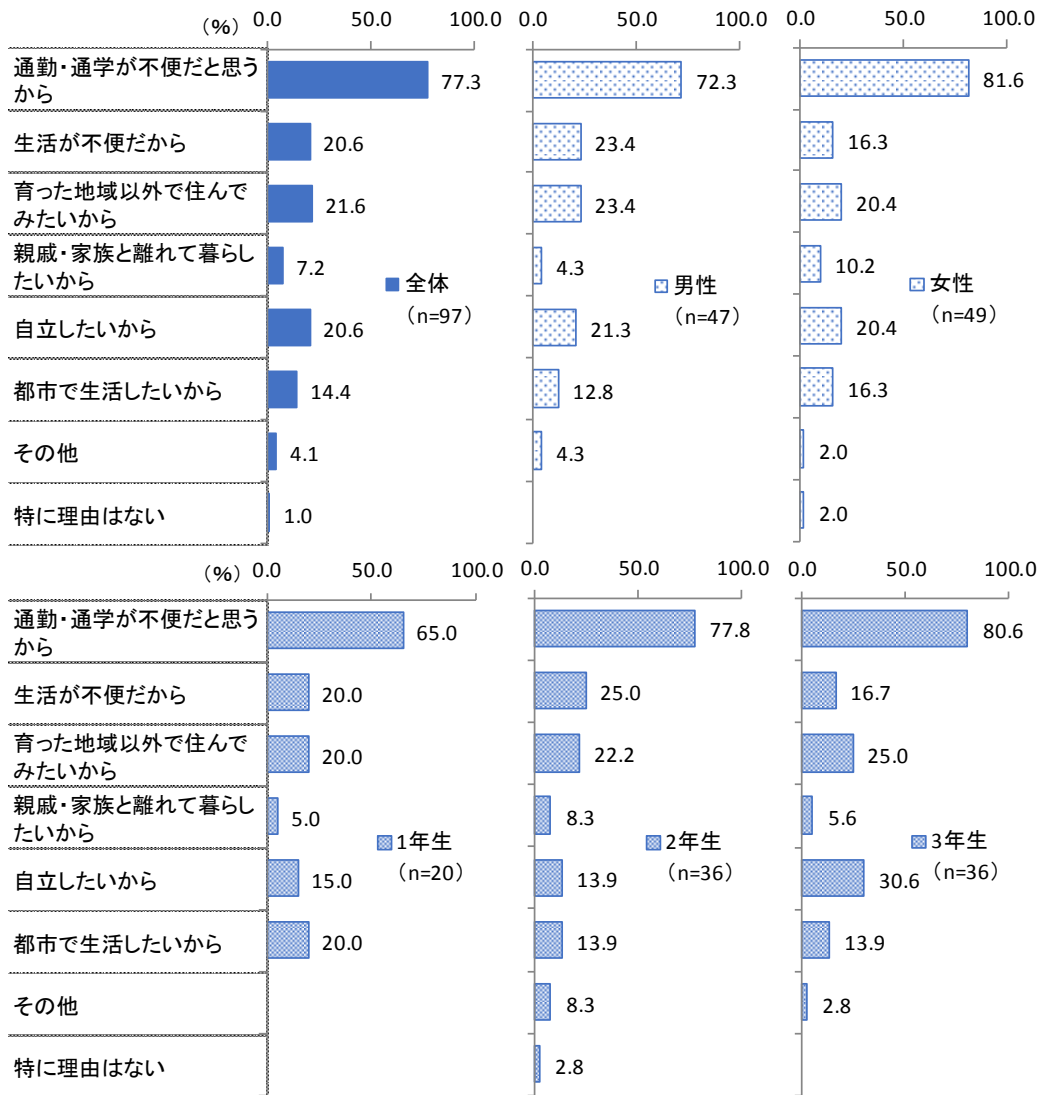
※「住み続けたいが、通勤・通学が不便だからできないと思う」または「住み続けたくない」と回答された方

4. 住み続けることができない理由

「通勤・通学が不便だと思うから」が77.3%

卒業後住み続けることができないと思う理由をみると、「通勤・通学が不便だと思うから」が77.3%と最も高くなっています。

図表 20 住み続けることができない理由

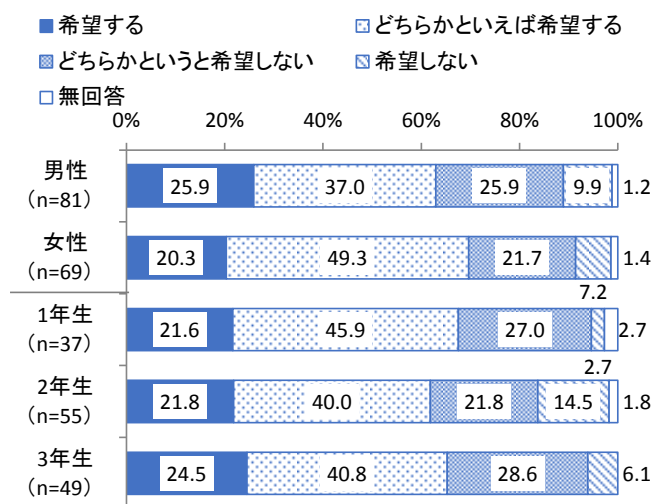
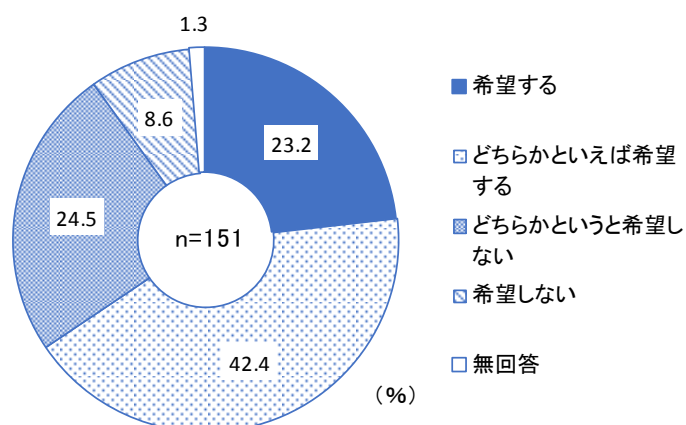


5. Uターン希望

“Uターンを希望する”³が65.6%、“希望しない”⁴が33.1%

将来新城市へのUターンを希望するかをみると、「どちらかといえば希望する」が42.4%と最も高く、これと「希望する」(23.2%)を合わせた“希望する”は65.6%となっています。一方で、“希望しない”は33.1%となっています。

図表 21 Uターン希望



³ 「希望する」と「どちらかといえば希望する」を合わせたもの

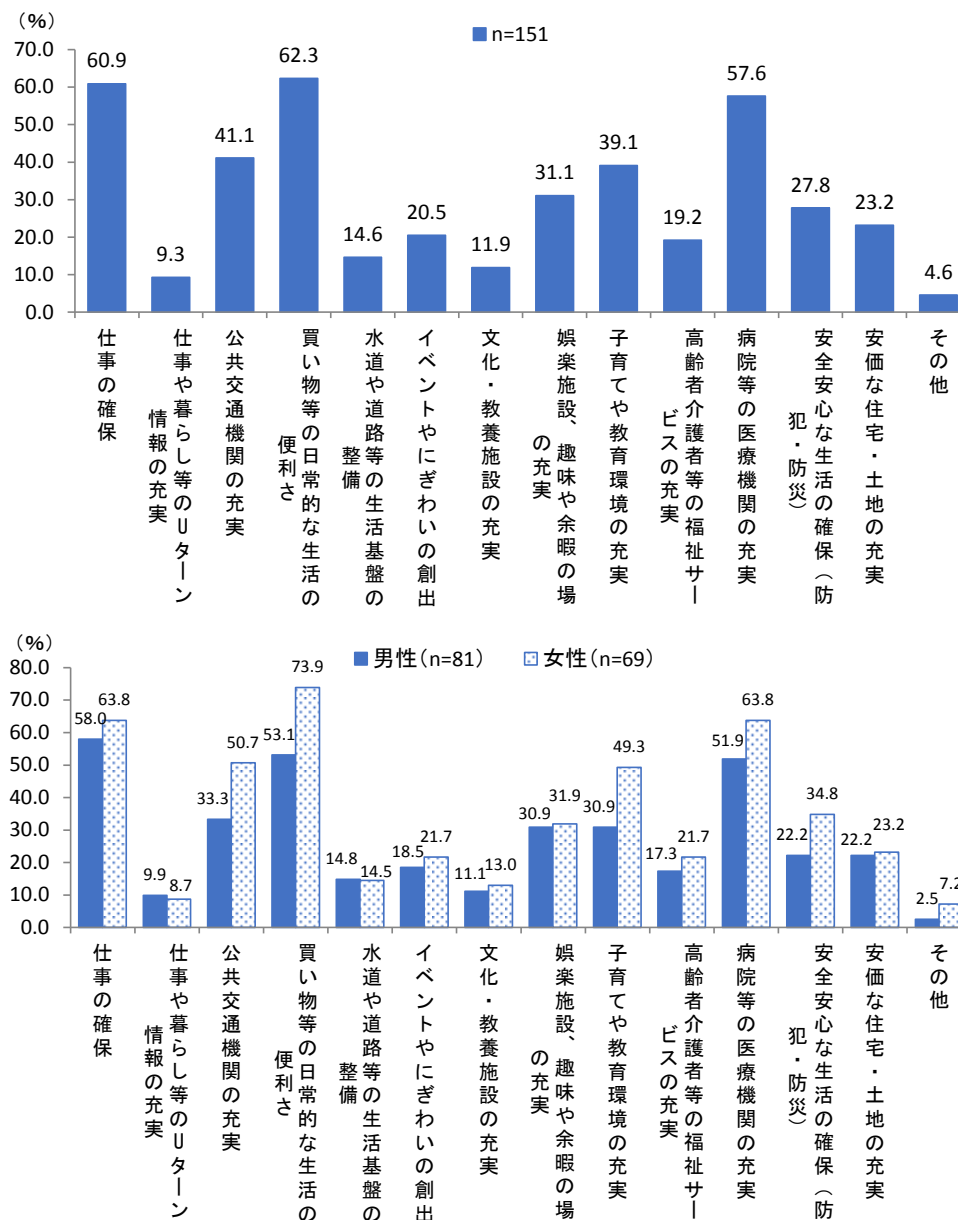
⁴ 「希望しない」と「どちらかというと希望しない」を合わせたもの

6. Uターンでの定住をするために必要な条件・環境

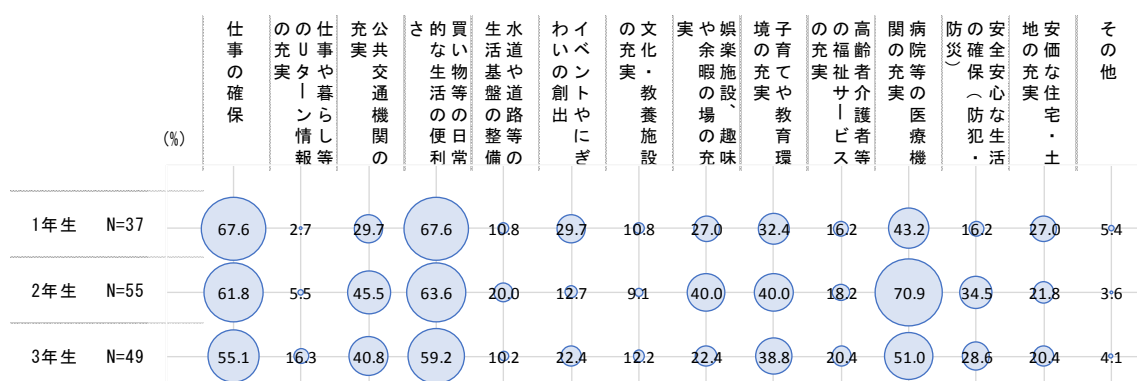
「買い物等の日常的な生活の便利さ」が62.3%、「仕事の確保」が60.9%

Uターンでの定住をするために必要な条件や環境をみると、「買い物等の日常的な生活の便利さ」が62.3%と最も高く、次いで、「仕事の確保」(60.9%)、「病院等の医療機関の充実」(57.6%)となっています。

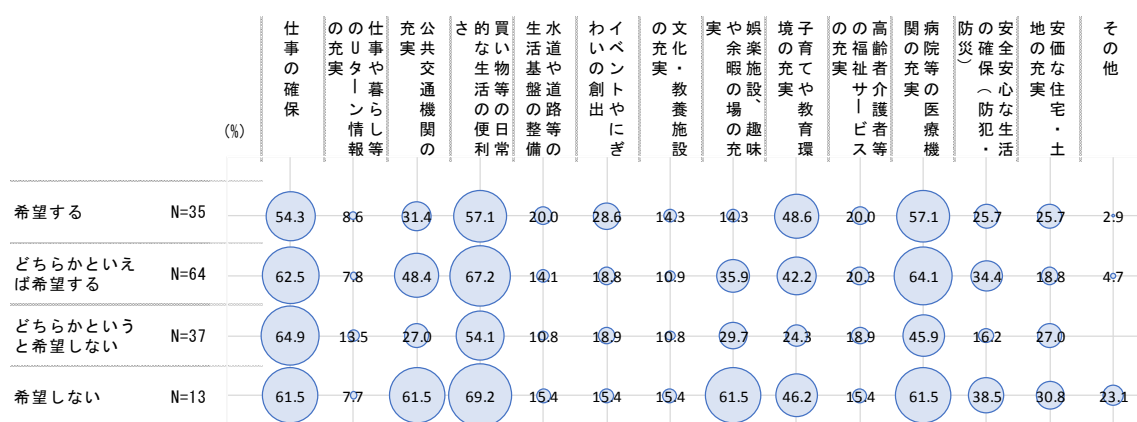
図表 22 Uターンでの定住をするために必要な条件・環境



学年別でみると、「2年生」で「病院等の医療機関の充実」が70.9%、「娯楽施設、趣味や余暇の場の充実」が40.0%と高くなっています。



問8の新城市へのUターン希望別でみると、「希望しない」では他に比べて、「公共交通機関の充実」や「娯楽施設、趣味や余暇の場の充実」の割合が高くなっています。

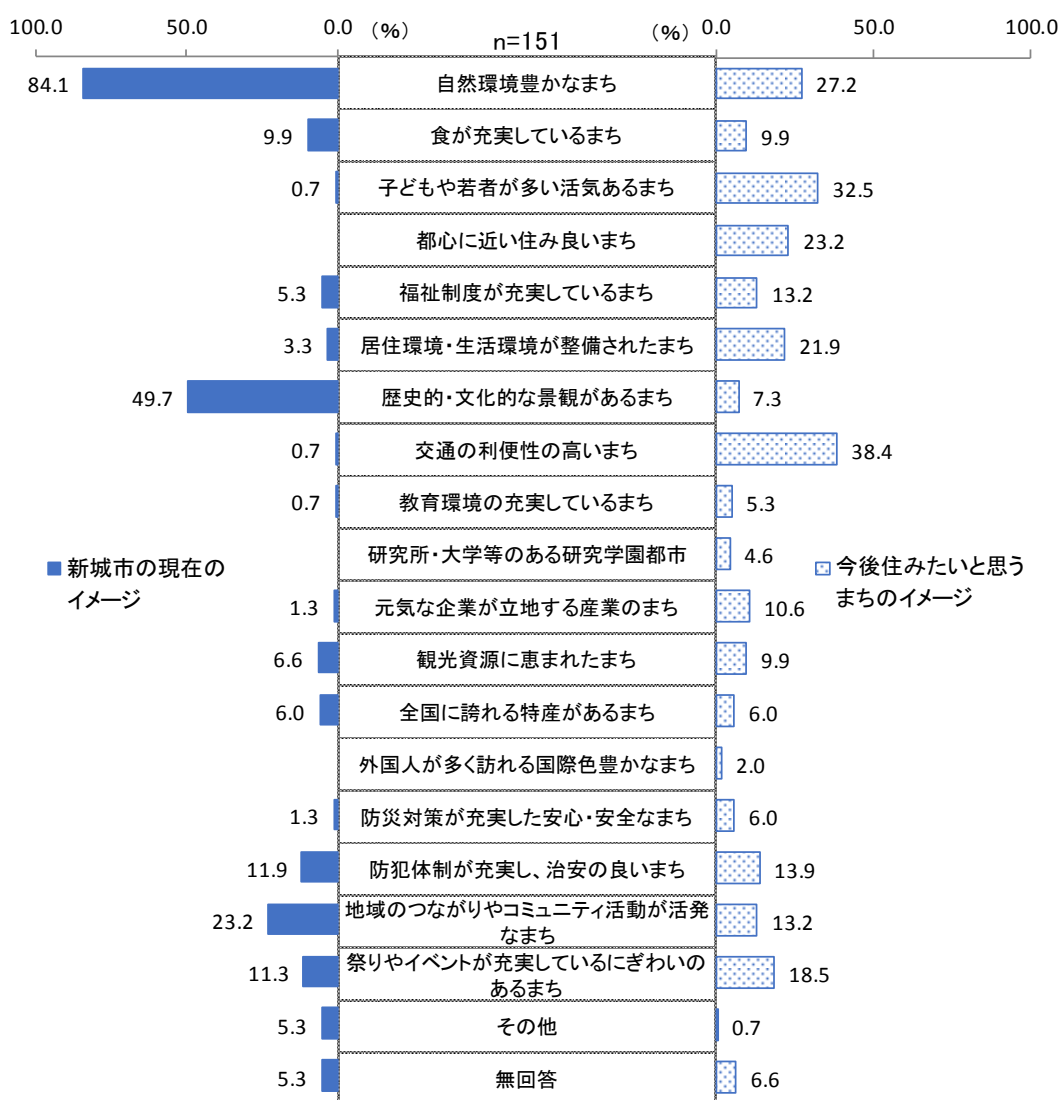


7. 新都市と住みたいと思うまちのイメージ

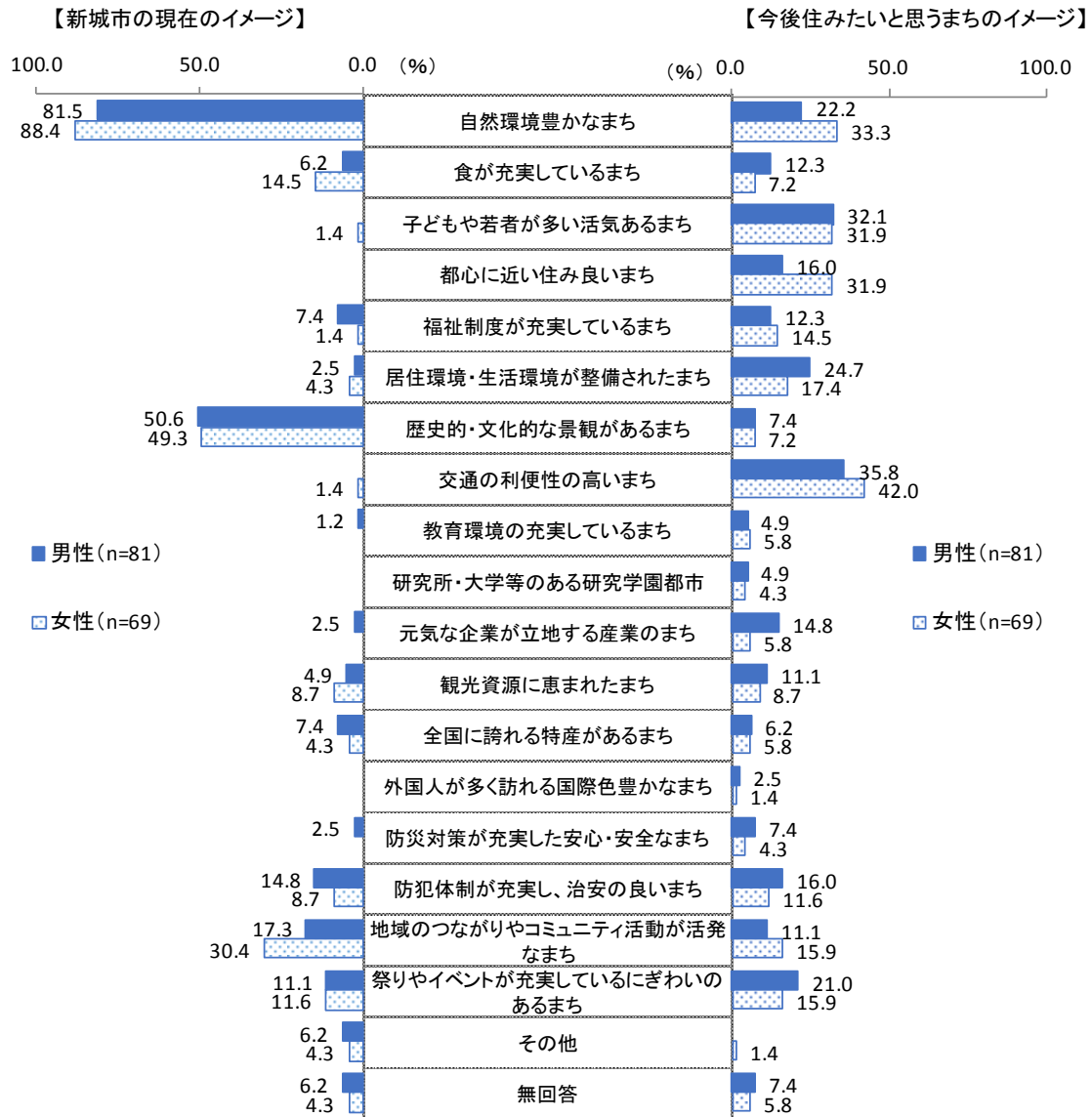
現在の新都市は「自然環境豊かなまち」(84.1%)で、今後住みたいと思うのは「交通の利便性の高いまち」(38.4%)

新都市の現在のイメージをみると、「自然環境豊かなまち」(84.1%)、今後住みたいと思うまちのイメージをみると、「交通の利便性の高いまち」(38.4%)が最も高くなっています。

図表 23 新都市と住みたいと思うまちのイメージ



性別で見ると、新都市の現在のイメージでは「地域のつながりやコミュニティ活動が活発なまち」、今後住みたいと思うまちのイメージでは「都心に近い住みよいまち」と「自然環境豊かなまち」の男女差が10ポイント以上と多くなっています。



<新都市の現在のイメージ>

問8の新都市へのUターン希望別に新都市の現在のイメージをみると、希望度が高くなるにつれて、「自然環境豊かなまち」、「歴史的・文化的な景観があるまち」が高くなっています。

	(%)	自然環境豊かなまち	食が充実しているまち	子どもや若者が多い活気あるまち	都心に近い住みよいまち	福祉制度が充実しているまち	居住環境・生活環境が整備されたまち	歴史的・文化的な景観があるまち	交通の利便性の高いまち	教育環境の充実しているまち	研究所・大学等のあるまち	元気な企業が立地するまち	観光資源に恵まれたまち	全国に誇れる特産があるまち	外国人が多く訪れる国際色豊かなまち	防災対策が充実した安心・安全なまち	防犯体制が充実し、治安の良いまち	祭りやイベントが充実しているにぎわいのあるまち	その他	無回答
希望する	N=35	88.6	8.6		5.7		62.9		2.9			5.7			2.9	8.6	31.4	14.3	2.9	2.9
どちらかといえば希望する	N=64	84.4	10.9	1.6	4.7	6.3	50.0	1.6				6.3	7.8		1.6	15.6	23.4	12.5	4.7	4.7
どちらかという并希望しない	N=37	83.8	10.8		8.1	2.7	40.5				2.7	8.1	8.1			8.1	18.9	8.1	5.4	8.1
希望しない	N=13	76.9	7.7				38.5					7.7	7.7	7.7		15.4	15.4	7.7	15.4	7.7

<今後住みたいと思うまちのイメージ>

問8の新都市へのUターン希望別にみると、“希望しない”⁵では「交通の利便性の高いまち」、「都心に近い住み良いまち」、「子どもや若者が多い活気あるまち」、「居住環境・生活環境が整備されたまち」の割合が高くなっています。

	(%)	自然環境豊かなまち	食が充実しているまち	子どもや若者が多い活気あるまち	都心に近い住みよいまち	福祉制度が充実しているまち	居住環境・生活環境が整備されたまち	歴史的・文化的な景観があるまち	交通の利便性の高いまち	教育環境の充実しているまち	研究所・大学等のあるまち	元気な企業が立地するまち	観光資源に恵まれたまち	全国に誇れる特産があるまち	外国人が多く訪れる国際色豊かなまち	防災対策が充実した安心・安全なまち	防犯体制が充実し、治安の良いまち	祭りやイベントが充実しているにぎわいのあるまち	その他	無回答
希望する	N=35	54.3	14.3	40.0	14.3	14.3	8.6	11.4	20.0	2.9		17.1	20.0	5.7		8.6	2.9	31.4	17.1	5.7
どちらかといえば希望する	N=64	28.1	9.4	32.8	12.5	9.4	23.4	9.4	39.1	4.7	4.7	12.5	9.4	9.4	4.7	3.1	20.3	9.4	20.3	6.3
どちらかという并希望しない	N=37	8.1	8.1	18.9	40.5	18.9	29.7	2.7	45.9	10.8	10.8	2.7	5.4	2.7		5.4	16.2	5.4	16.2	2.7
希望しない	N=13	7.7	7.7	46.2	53.8	15.4	30.8		53.8			7.7				15.4	7.7	7.7	15.4	7.7

⁵ 「希望しない」と「どちらかという并希望しない」を合わせたもの

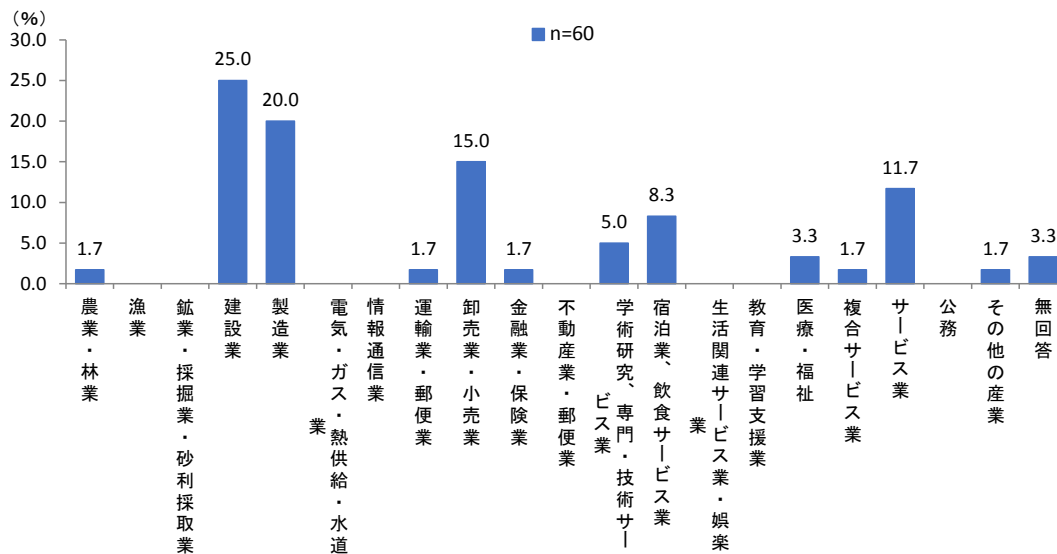
●市内事業所の雇用動向に関するアンケート

1. 産業分類

「建設業」が25.0%、「製造業」が20.0%

回答事業所の産業分類は、「建設業」が25.0%と最も高く、次いで「製造業」(20.0%)、「卸売業・小売業」(15.0%)、「サービス業」(11.7%)となっています。

図表 24 産業分類

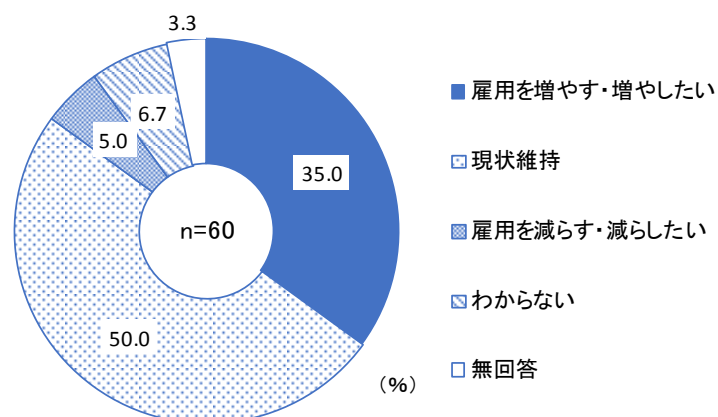


2. 雇用計画の意向

「現状維持」が50.0%

今後の労働者の雇用計画の意向をみると、「現状維持」が半数を占め、次いで「雇用を増やす・増やしたい」が35.0%、「雇用を減らす・減らしたい」が5.0%となっています。

図表 25 雇用計画の意向



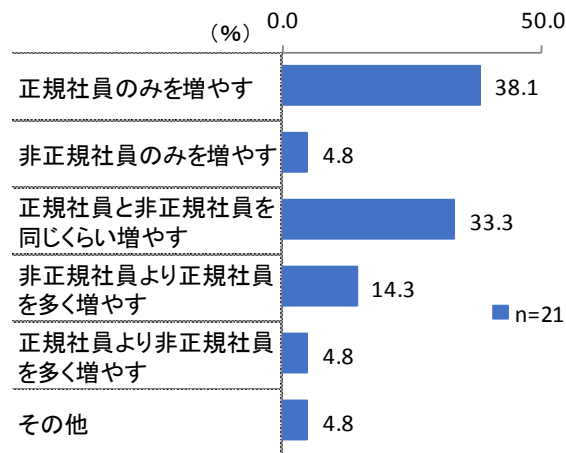
※「雇用を増やす・増やしたい」と回答された方

3. 増やす予定の雇用形態

「正規社員のみ増やす」が38.1%

増やす予定の雇用形態をみると、「正規社員のみを増やす」が38.1%と最も高く、次いで「正規社員と非正規社員を同じくらい増やす」(33.3%)となっています。

図表 26 増やす予定の雇用形態

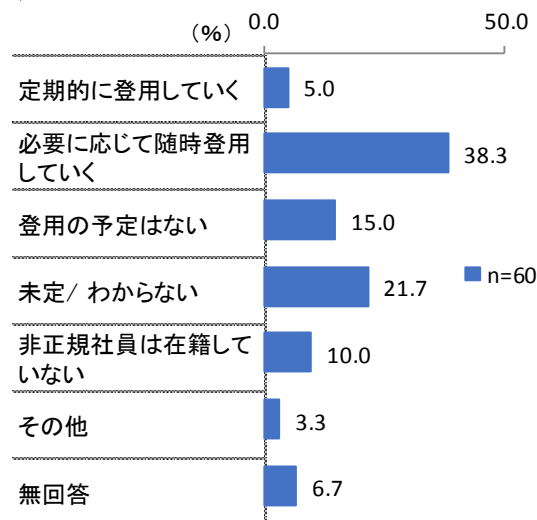


4. 正社員登用

「必要に応じて随時登用していく」38.3%

今後の正社員登用の方針についてみると、「必要に応じて随時登用していく」が38.3%と最も高く、次いで「未定/わからない」が21.7%と高くなっています。

図表 27 正社員登用

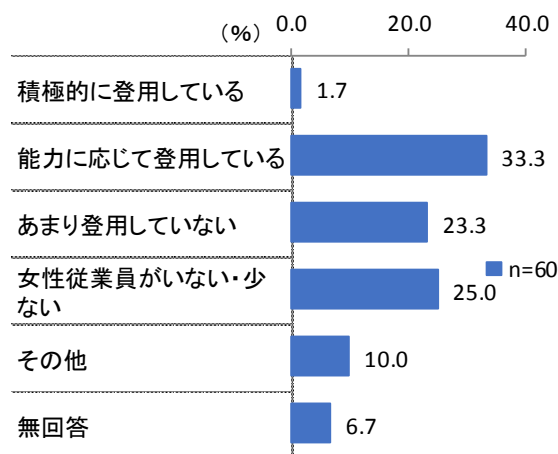


5. 女性の管理職・役員の登用

「能力に応じて登用している」33.3%

女性の管理職・役員の登用についてみると、「能力に応じて登用している」が33.3%と最も高く、次いで「女性従業員がいない・少ない」(25.0%)、「あまり登用していない」(23.3%)となっています。

図表 28 女性の管理職・役員の登用

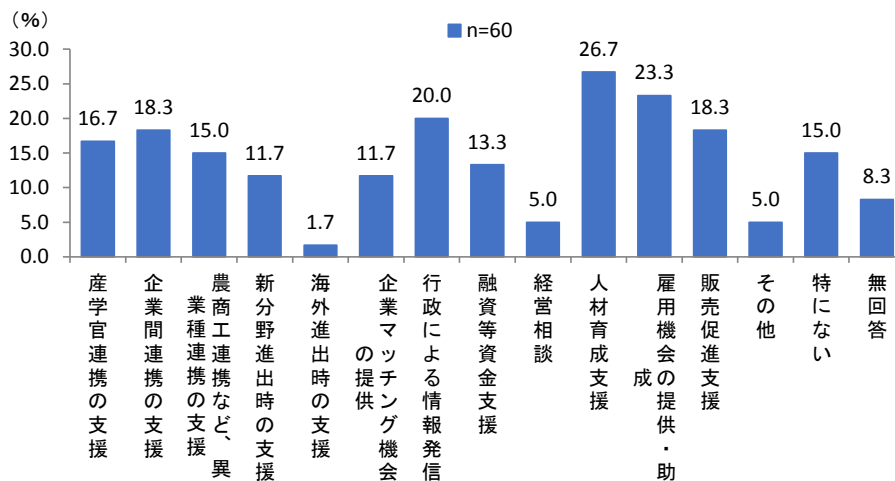


6. 行政機関や支援機関の取り組み

「人材育成支援」が26.7%、「雇用機会の提供・助成」が23.3%

行政機関や支援機関の取り組みで期待するものをみると、「人材育成支援」が26.7%と最も高く、次いで「雇用機会の提供・助成」(23.3%)、「行政による情報発信」(20.0%)となっています。

図表 29 行政機関や支援機関の取り組み

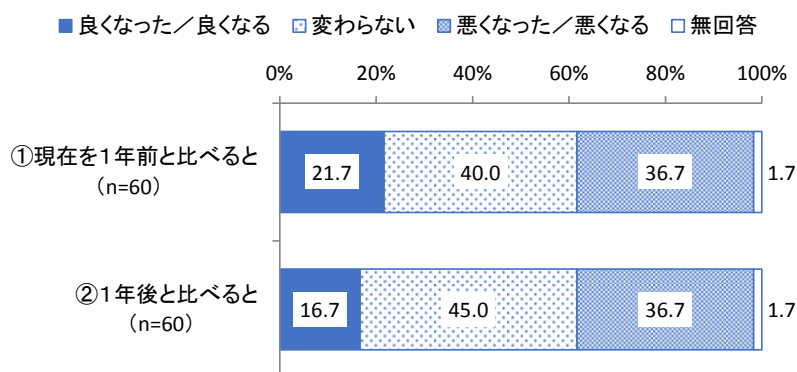


7. 景況感の変化

①②ともに「変わらない」が最も高い

景況感の変化をみると、「①現在と1年前と比べると」と「②1年後と比べると」とともに「変わらない」が4割以上で最も高くなっています。

図表 30 景況感の変化

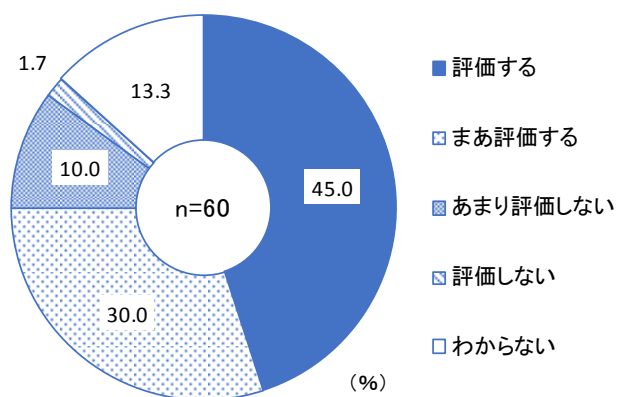


8. 地方創生の考え方についての評価

“評価する”⁶75.0%、“評価しない”⁷11.7%

地方創生の考え方についての評価をみると、「評価する」が45.0%と最も高く、これと「まあ評価する」(30.0%)を合わせた“評価する”は75.0%となっています。一方、「評価しない」は11.7%となっています。

図表 31 地方創生の考え方についての評価



6 「評価する」 + 「まあ評価する」

7 「評価しない」 + 「あまり評価しない」